



日本学校心理士会第 20 回大会 日本学校心理学会第 28 回大会 プログラム

大会テーマ

ウェルビーイングの学校創り -実践知と協働をアジアから考える-

Creating Well-being Schools

-Sharing Practical Wisdom and Collaboration across Asia-



分科会 2026年8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

全体会 2026年8月23日(日) 横浜市市民文化会館 関内ホール

日本学校心理士会第 20 回大会 日本学校心理学会第 28 回大会 大会長あいさつ

日本学校心理士会第 20 回大会・日本学校心理学会第 28 回大会は 2026 年 8 月 22 日・23 日に、ここ横浜の地において対面形式で開催いたします。開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係の皆様
に心より御礼申し上げます。本大会のテーマ及び英語テーマとして以下のように掲げております。

ウェルビーイングの学校創りー実践知と協働をアジアから考えるー
Creating Well-being Schools
— Sharing Practical Wisdom and Collaboration across Asia —

近年、学校現場では、不登校やいじめ問題、発達のも多様性、AI の使用を取り巻く課題、家庭環境の変化など、子どもを取り巻く状況が一層複雑化しています。こうした状況の中で私たちは「子どもをどのように支援するか」という視点に加え、「どのような学校を創るのか」という問いが改めて問われているのではないのでしょうか。

ウェルビーイングは、個人の心の状態にとどまるものではなく、人と人との関係、学びの環境、そして学校文化と深く関わるものです。子ども一人ひとりのウェルビーイングを支えるためには、学校全体の在り方を見つめ直し、環境や関係性を含めた包括的な視点から取り組むことが求められています。

本大会では、学校心理士をはじめ、学校心理学の研究者、教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育行政関係者など、多様な立場の専門職が集い、それぞれの実践知を共有しながら、「協働」による学校創りの可能性について共に考えたいと思います。

また、台湾およびマレーシアから研究者をお招きし、アジアの視点から学校教育支援の実践を学び合う機会を設けております。異なる文化や制度の中で培われた知見に触れることは、これからの学校創りを考えるうえで、大きな示唆を与えてくれるものと期待しております。

神奈川支部ではこれまで、「つながり」を大切にした実践を重ねてまいりました。本大会が、新たなつながりを生み出し、明日からの各地区での実践へとつながる学びの場となることを願っております。

皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日本学校心理士会第 20 回大会
日本学校心理学会第 28 回大会
大会長 芳川玲子

主催

日本学校心理士会および日本学校心理学会による合同開催

後援

- 文部科学省
- こども家庭庁
- 神奈川県教育委員会
- 横浜市教育委員会
- 川崎市教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 横須賀市教育委員会
- 公益社団法人 日本公認心理師協会
- 一般社団法人 日本スクールカウンセリング推進協議会
- 一般社団法人 日本心理学諸学会連合
- 学校法人国際学園 星槎大学

開催

本大会は、すべてのプログラムを**対面形式**で実施します。

■ 2026 年 8 月 22 日 (土)

神奈川大学 みなとみらいキャンパス

研修講座、SV 研修、准学校心理士研修、ポスター発表、懇親会

■ 2026 年 8 月 23 日 (日)

横浜市市民文化会館 関内ホール (大ホール)

開会セレモニー／基調講演、教育講演、大会シンポジウム

目 次

1. 会場アクセス	1
2. 会場フロア案内	2
3. 会場フロア MAP 神奈川大学みなとみらいキャンパス	3
4. 会場フロア MAP 横浜市市民文化会館 関内ホール	6
5. 大会スケジュール	8
6. 参加者へのご案内	9
7. ポスター発表者へのご案内	12
8. 研修講座のご案内 研修講座①～⑧	13
SV 研修Ⅰ～Ⅲ	18
准学校心理士研修	20
9. 大会講演・シンポジウムのご案内	21
10. ポスター論文一覧	23
人名索引	39
大会合同実行委員会 名簿	41
広告掲載・出展社一覧	42

会場アクセス

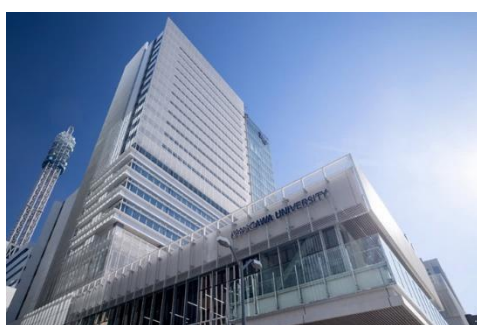
■8月22日(土)

分科会会場 神奈川大学みなとみらいキャンパス

神奈川県横浜市西区みなとみらい4丁目5-3

会場アクセス

- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩約 6 分
- みなとみらい線「新高島駅」下車徒歩約 4 分
- JR・東急東横線・京浜急行・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車徒歩約 11 分
- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩約 12 分
- 駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください



(大学ホームページから)



■8月23日(日)

全体会会場 横浜市市民文化会館 関内ホール大ホール

神奈川県横浜市中区住吉町4丁目42-1

会場アクセス

- JR(京浜東北根岸線・横浜線)「関内駅」北口改札下車徒歩約6分
- 市営地下鉄「関内駅」9番出口より50m
- みなとみらい線「馬車道駅」5番出口より200m
- 横浜駅東口乗り場からバス利用の場合は、ホームページでご確認ください



(関内ホールホームページから)



会場フロア案内

■8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

 Wi-Fi スポット

 学校心理士資格更新ポイント交付対象

1階	エントランスロビー		QRコード受付 (9:00~16:00) 大会プログラム・参加章ホルダー等お渡し
	レストラン VOYAGE		懇親会会場

3階	3007講義室		AM.研修講座① PM.研修講座⑤
	3008講義室		AM.SV研修Ⅰ PM.SV研修Ⅲ
	3009講義室		AM.SV研修Ⅱ PM.准学校心理士研修
	3010講義室		大会本部
	3011講義室		理事・来賓控室
	ラーニングcommons		SV受験者待機所・休憩所(食事禁止)

4階	4008講義室		荷物預かり所 (9:00~18:00)
	4009講義室		総合案内所 (9:00~18:00)
	ラーニングcommons		休憩所(食事厳禁)

5階	5006講義室		AM.研修講座④ (食事・休憩) PM.研修講座⑧
	5007講義室		AM.研修講座③ (食事・休憩) PM.研修講座⑥
	5008講義室		AM.研修講座② (食事・休憩) PM.研修講座⑦
	5025・5026 中小ホール		ポスターセッション会場
	5030講義室		書籍販売・ちらし設置コーナー
	ラーニングcommons		休憩所(食事厳禁)

■8月23日(日) 横浜市市民文化会館 関内ホール

 Wi-Fi スポット

 学校心理士資格更新ポイント交付

1階	エントランスホール		QRコード受付 (9:00~18:00)
----	-----------	--	----------------------

2階	ホワイエ 大ホール		手荷物置場
			AM.開会セレモニー/基調講演
			PM.教育講演
	ホワイエ		PM.大会シンポジウム
3階			休憩所(食事厳禁)

会場フロア MAP ■8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

1F



総合受付

神奈川大学みなとみらいキャンパス ご来場の際のご案内

- みなとみらいキャンパスには駐車スペースがありません。
自動車・バイク・自転車・スケートボード等の乗り入れ、駐輪・駐車はできませんので、公共交通機関をご利用ください。
- 周辺道路はすべて公道のため、路上駐車は違法となり、法令による処分の対象となります。
また、車両での送迎もお控えください。
- メインエントランスより入構後、まず **総合受付** にて QR コードによる入場受付をお済ませください。
受付後、**エスカレーター**で上階の各会場へお進みください。
なお、会場滞在中は、交付された「ネームカードホルダー」を必ず首から下げてご着用ください。
着用されていない場合、警備員よりお声がけさせていただくことがあります。
- **2階への立ち入りはご遠慮ください。**
- 3階～5階の会場につきましては、「会場フロア案内」および「会場フロア MAP」をご確認ください。

3F

-  出入口
Entrance
出入口 / Entrada
-  エレベーター
Elevator
エレベーター / Ascensor
-  エスカレーター
Escalator
エスカレーター / Escalera
-  階段
Stairs
階段 / Escalera
-  トイレ
Toilet
男子トイレ / 女子トイレ / Baño
-  バリアフリートイレ
All Access Toilet
全席対応トイレ / 全席対応トイレ / Baño sin barreras
-  自動販売機
Vending Machine
自動販売機 / Máquina expendedora



4F

-  出入口
Entrance
出入口 / Entrada
-  エレベーター
Elevator
エレベーター / Ascensor
-  エスカレーター
Escalator
エスカレーター / Escalera
-  階段
Stairs
階段 / Escalera
-  トイレ
Toilet
男子トイレ / 女子トイレ / Baño
-  バリアフリートイレ
All Access Toilet
全席対応トイレ / 全席対応トイレ / Baño sin barreras
-  自動販売機
Vending Machine
自動販売機 / Máquina expendedora
-  救助用品キャビネット
Rescue Goods Cabinet
救助用品 / Dispensario de provisiones de emergencia





神奈川大学みなとみらいキャンパス 施設使用上のお願い

【休憩や飲食スペースについて】

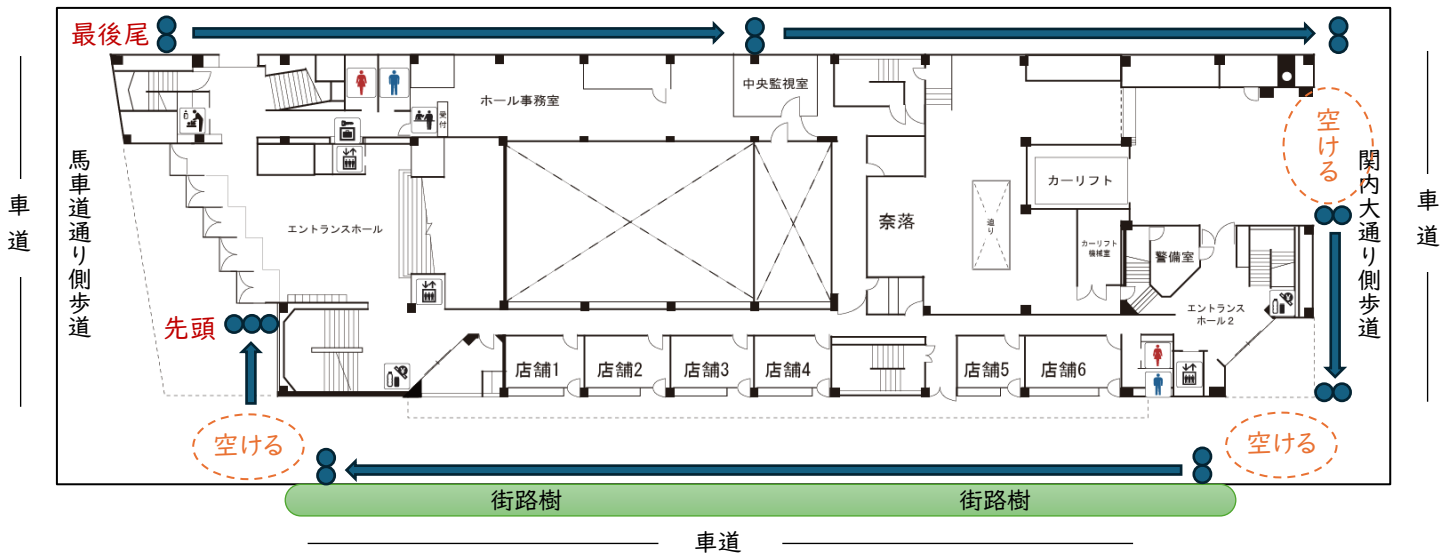
- 会場内は全面禁煙です。
- 各フロアのラーニングcommons（講義室の外の座席）は図書館の扱いになるため、休憩スペースとしてお使いいただけますが、**食事は不可**です。但し、水筒やペットボトルのような蓋つきのお飲み物は問題ありません。
- お食事については、以下の講義室を開放しますので、時間内にお使いください。
 開放時間：12:30～14:30
 講義室：（5階）5006、5007、5008
- 午後の研修講義でも使用する部屋ですので、ゴミは必ずお持ち帰りください。

【その他】

- 貴重品以外のスーツケースや手荷物は、（4階）4008講義室で預かります。出し入れする際は、係員にお声かけください。
- 施設内に備え付けてある物品の持ち出しは禁止です。
- 上記会場フロアMAPの  記号の場所へは、立ち入らないでください。

会場フロア MAP ■8月23日(日)横浜市市民文化会館 関内ホール

並び方(係員による整理・誘導に従ってください。)



横浜市市民文化会館 関内ホール 来場・入場時のお願い

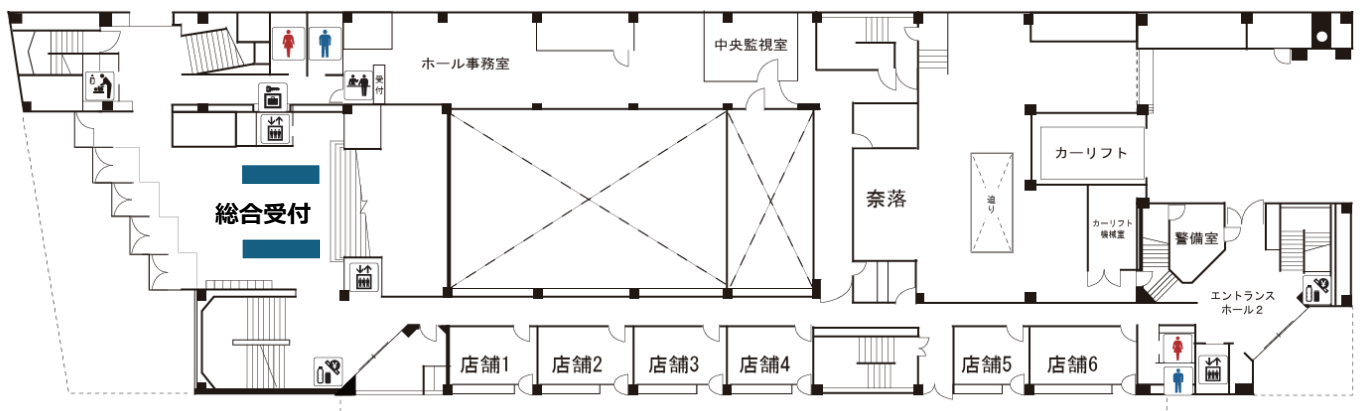
【来場について】

- 来場者用の駐車場・駐輪場はございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

【並び方について】

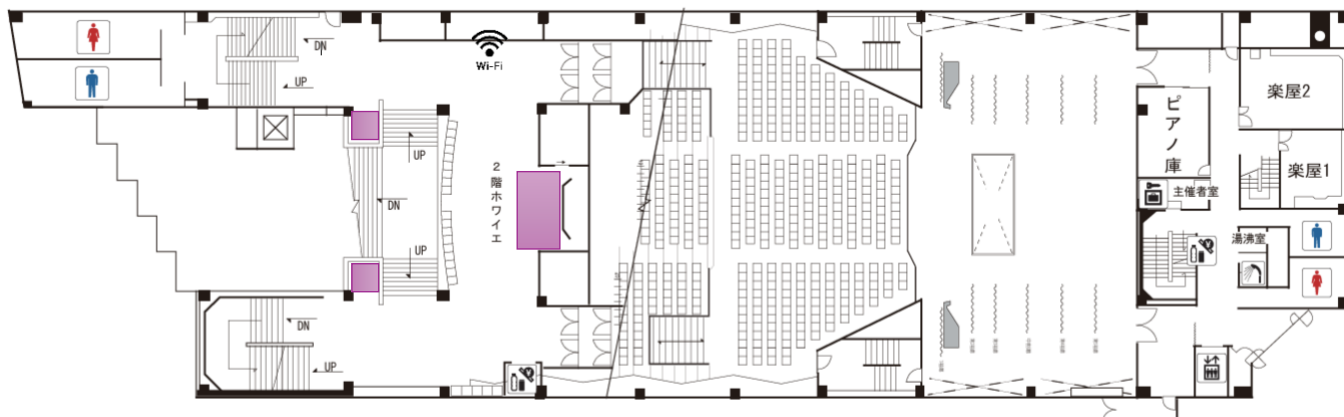
- 1階エントランスホールはスペースが限られておりますので、受付開始までは屋外でお待ちください。その際は、歩道および建物側面の店舗前をふさがないように、3列でお並びいただき、正面玄関から歩道の街路樹に沿って整列してください。係員がご案内いたしますので、その指示に従ってください。
- 総合受付では、参加証(QRコード)を読み取ってからご入場いただきます。スムーズな入場のため、あらかじめQRコードをご準備ください。
なお、参加証は会期中、常時ご着用くださいますようお願いいたします。

1階

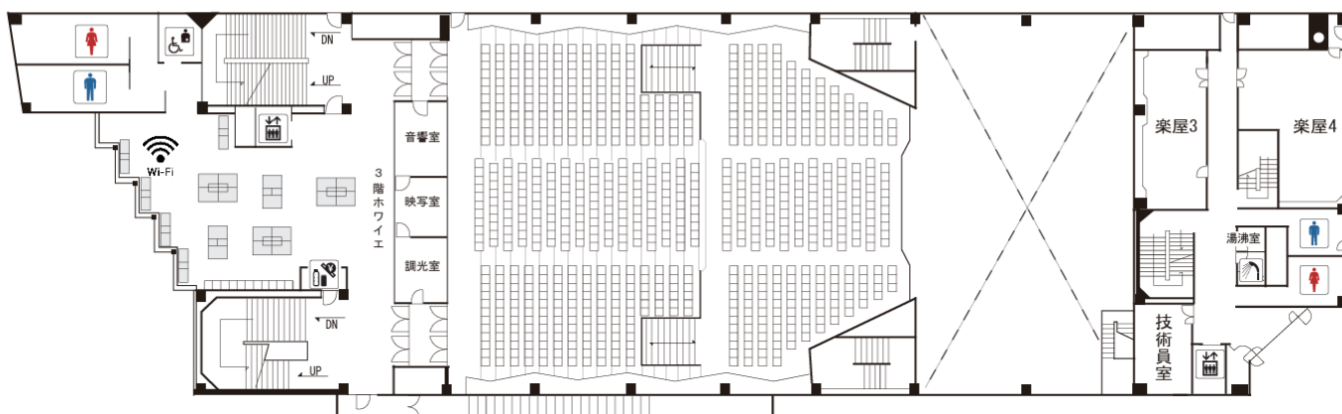


2階

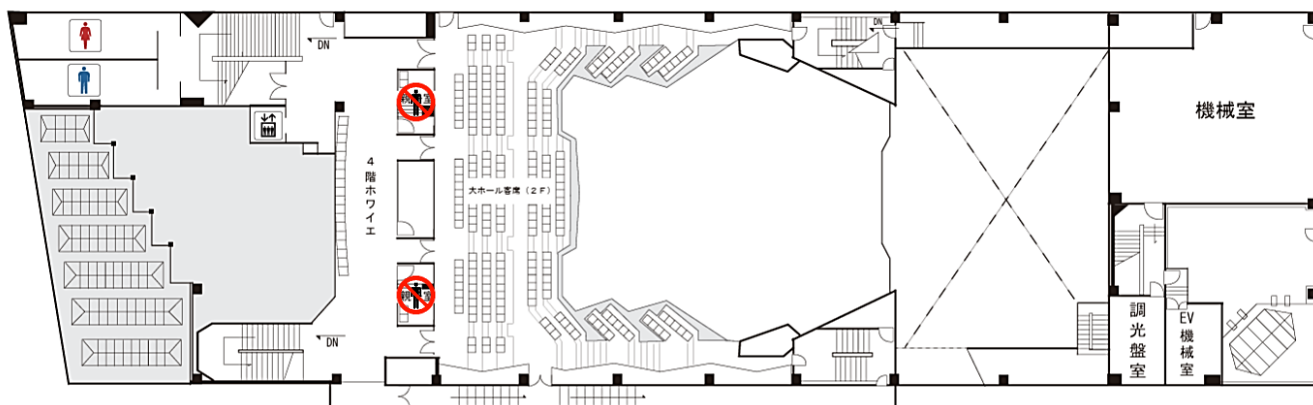
■: 荷物置場



3階



4階



横浜市市民文化会館 関内ホール 施設使用上のお願い

【休憩や飲食スペースについて】

- 敷地内は完全禁煙です。喫煙室等ありません。
- 舞台、客席内での飲食は禁止となっております。ロビーは飲食可能です。
- ゴミは必ずお持ち帰りください。

【その他】

- 貴重品は各自で責任もって管理してください。スーツケースや手荷物等置場は、2階ホワイエにあります。指定のエリアに置いてください。

大会スケジュール

■8月22日(土)会場:神奈川大学みなとみらいキャンパス

	3階 3007	3階 3008	3階 3009	5階 5006	5階 5007	5階 5008	5階 中小ホール	1階 レストラン
10:00	研修講座 ①	SV 研修 I (領域 II)	SV 研修 II (領域 I)	研修講座 ④	研修講座 ③	研修講座 ②		
11:00	アジアの学校心理学と心理カウンセリング	アセスメントとケースフォーミュレーション	学校で災害時に命を守る・救うために必要なものは?	神経発達症の理解	(シンポジウム) かながわの支援教育	子どもの“生きる力”を支える『横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち〜』		
12:00								
12:30							ポスター発表 受付・準備	
13:00				食事・休憩所 (一般開放) ※ごみの持ち帰り。時間の厳守。			ポスター発表	
14:00							奇数:前半 偶数:後半	
14:30								
15:00								
15:30								
16:00	研修講座 ⑤ (ワークショップ) 学校ですぐできる SEL	SV 研修 III (領域 III) 『やる気』『意欲』と学校心理士の役割	准学校心理士研修 聴くということ	研修講座 ⑧ 儒教・仏教・道教の叡智を統合した心理学と心理療法	研修講座 ⑥ 災害支援について考える	研修講座 ⑦ トラウマインフォームドケア		
17:00								
17:30								
18:00								受付※
19:00								懇親会
20:00								

※当日の参加申込はできません。

■8月23日(日)会場:横浜市市民文化会館 関内ホール

	大ホール
10:00	開会セレモニー/基調講演
12:00	
13:00	日本学校心理学会 授賞式・表彰式/教育講演
14:30	
15:30	大会シンポジウム
17:30	

参加者へのご案内

1. 参加申込み

本大会に参加される

- ・日本学校心理士会会員の方
- ・日本学校心理学会会員の方
- ・会員でない一般の方

ともに、大会専用ページ <https://int-psl.com/taikai2026/>

の「事前参加申込（外部サイト）」より、事前にお申込みください。

また、大学生および大学院生の方は、学生証の登録も併せて行ってください。

なお、事前にお申込みいただいていない方の当日参加はご遠慮ください。

2. 参加費の納入

- ・参加申込は、下記の参加費を納入した時点で完了します。
- ・参加費のお支払いは、クレジット決済、銀行振込をご用意しています。
- ・本参加費は日本学校心理士会と日本学校心理学会の共同開催である本大会に限り有効とします。

【会費区分】 日本学校心理士会を「士会」、日本学校心理学会を「学会」とします。

区分【A】:「士会」もしくは「学会」の会員、または両方の会員。

区分【B】:「士会」「学会」のいずれにも所属していない方。

種別 \ 区分	【A】	【B】
学校心理士/一般 (SV・ガイダンスカウンセラー含む)	8,000円	10,000円
准学校心理士	4,000円	—
大学院生	4,000円	5,000円
学部生	1,000円	1,000円
懇親会費 ※懇親会のための参加は不可とします	6,000円	6,000円

3. 参加章「ネームカード」

事前に参加申込および参加費を納入された方は、下記の日程より参加章「ネームカード」をダウンロードすることができます。

【ダウンロード開始】 8月7日（金）正午より

本大会では、QRコードによる入場確認をしております。

大会当日までに「ネームカード」を印刷（A4 サイズ）し、

切り取らずに必ず会場にご持参ください。

マークの意味



: 筆頭発表者



: 懇親会参加者

（見本）

日本学校心理士会第20期大会
日本学校心理学会第28期大会

お申込みプラン

登録費: (オンライン/オフライン) 本大会の登録費として、心証に貼付してください。

研修費: トライクマインフォームドリア

8/23 10:00~12:00 研究会/懇親会に参加します

8/23 15:30~17:30 大会シンポジウムに参加します

8/22 3007 研修費 研修費 3008 SV研修 研修費 3009 SV研修 研修費 5006 研修費 5007 研修費 5008 研修費

4. 総合受付

■8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

- ①キャンパス構内1階のエントランスロビーの「総合受付」にて、**9:00**より開始します。
- ②ご持参いただいた「ネームカード」のQRコードを、設置してあるタブレットにかざしてください。
- ③受付係より「ネームカードホルダー」「大会プログラム冊子」「大会参加I票」等をお受け取りください。
なお、「ネームカードホルダー」は大会期間中、ご着用をお願いいたします。
着用されていない場合、入構できない場合があります。

■8月23日(日) 横浜市市民文化会館 関内ホール「大ホール」

- ①ホール内1階のエントランスロビーの「総合受付」にて、**9:30**より開始します。
- ②ご持参いただいた「ネームカード」のQRコードを、設置してあるタブレットにかざし、参加票を受け取って入場してください。
- ③当日よりご参加の方は、係員にお声掛けください。
「ネームカードホルダー」「大会プログラム冊子」「大会参加I票」等をお渡しします。
- ④準備の都合上、ホールへのご入場は、9:30からのご案内の予定です。

5. 荷物預かり(クローク)

■8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

- ①各自、4階の「**4008講義室**」まで、お持ちください。係員が対応いたします。

【利用時間】9:00～17:45

- ②手荷物、携帯品をお預かり証と引き換えにお預かりいたします。
なお、貴重品および傘のお預かりはできません。

■8月23日(日) 横浜市市民文化会館 関内ホール「大ホール」

- ①会場の都合上、クロークの設置はできません。各自の責任において、指定の場所にまとめて置いてください。
- ②貴重品は必ず各自で管理し、常にお手元にお持ちください。

6. 「学校心理士資格更新ポイント」の取得手順

■8月22日(土) 神奈川大学みなとみらいキャンパス

- ①各研修講座教室の入口デスクにて、「研修講座参加票兼学校心理士更新ポイント交換票」をお受け取りください。
- ②講座を受講。
- ③受講後、教室入口デスクにて「研修講座参加票兼学校心理士更新ポイント交換票」と「受講証明書(研修講座〇用)学校心理士資格更新ポイント(A)交付票」と交換してください。
なお、10分以上の遅刻や途中退室の場合は、交付の対象外となります。

■8月23日(日) 横浜市市民文化会館 関内ホール「大ホール」

- ①各講演会開始までに、1階総合受付にて「参加票兼学校心理士資格更新ポイント交換票」をお受け取りください。
- ②講演会を受講。
- ③終了後、同様1階総合受付にて、「参加票兼学校心理士資格更新ポイント交換票」と「受講証明書(講演会用)学校心理士資格更新ポイント(A)交付票」と交換してください。

7. 「日本公認心理師協会認定テーマ別研修単位」

本大会は（公益社団法人）日本公認心理師協会専門認定制度の、学会大会の「テーマ別研修（教育：2単位）」として登録済みです。

- ・専門認定制度に該当するのは、「日本公認心理師協会の正会員である者」です。
- ・学会大会のテーマ別研修への振替を適用できるのは、経過措置対象者のみとなります。
（「公益社団法人日本公認心理師協会 専門認定に関する規程」附則第2条第3項及び附則第3条第3項）
- ・日本公認心理師協会の専門認定を受ける際には、参加証明書を協会にご提出ください。
- ・参加証明書は、再発行いたしません。

参加証明書の交付：8月22日・23日の会期中、Ⅰ階総合受付にて希望者へ交付いたします。

参加証明書は両日共通でⅠ枚となります。

8. 休憩所

■8月22日（土） 神奈川大学みなとみらいキャンパス

①4階・5階のラーニングコモンズは、休憩場所として、ご自由にお使いいただけます。

ただし、図書館として位置づけられていますので、蓋つきの飲み物以外の**飲食は厳禁**とします。

②以下の講義室では、開放できる時間帯があります。ここでの飲食は可能です。ご利用ください。

【開放教室】 5階 5006・5007・5008講義室

【開放時間】 12:30～14:30

■8月23日（日） 横浜市市民文化会館 関内ホール「大ホール」

①大ホール内では、**舞台、客席内での飲食は厳禁**となっております。ロビーでは、飲食可能です。

②ごみは必ずお持ち帰りください。

8. Wi-Fi スポット

■8月22日（土） 神奈川大学みなとみらいキャンパス

以下の場所でフリーWi-Fiが利用できます。

◎3階 ラーニングコモンズ、大会本部付近

◎4階 ラーニングコモンズ

◎5階 ラーニングコモンズ、講義室前廊下

■8月23日（日） 横浜市市民文化会館 関内ホール

館内では、以下の場所のみフリーWi-Fiが利用できます。

◎2階 ホワイエ

◎3階 ホワイエ

9. 写真撮影・録音・録画

大会に参加される方による写真撮影・録音・録画は認められません。

なお、記録のため、大会係員（腕章着用）による写真撮影・録画・録音を行います。

撮影した画像・動画はホームページ等に掲載する場合がございますが、個人が特定されないことがないように配慮いたします。

10. 総合案内所

■8月22日（土） 神奈川大学みなとみらいキャンパス：4階の4009講義室

■8月23日（日） 横浜市市民文化会館 関内ホール：Ⅰ階エントランス総合受付

ポスター発表者へのご案内

【掲示会場】 5階の中小ホール

【掲示時間】 13:00～15:00

【在席時間】 前半 13:00～14:00 : 奇数番号

後半 14:00～15:00 : 偶数番号

1. 筆頭発表者は、準備時間(12:00～12:50)内に、ポスター発表受付(会場横)までお越しください。
ポイント発行(I から F への交換)を済ませたら、ポスターを所定のパネルに掲示してください。
連名発表者もポイント発行(I から H への交換)が必要な方は、ポスター発表受付までお越しください。
2. パネルの大きさは、横 90 cm、縦 180 cmです。
ポスターの上部には、発表題目、発表者氏名、所属を大きく記載してください。本文の文字の大きさは特に指定はありませんが、ポスターから離れた位置(約1.5m)からでも読める大きさにしてください。
3. ポスターセッション中(2時間)は、全論文の掲示をします。
また、事前にお知らせした在席責任時間中は、ポスターの前で個別の質疑応答を行ってください。
在席責任時間以外にもできるだけ在席し、ご対応ください。
なお、在席責任時間中に筆頭発表者の在・不在を確認します。
4. 筆頭発表者が欠席した場合、または在席責任時間中に在席確認ができなかった場合は、原則として「発表取消」となります。
ただし、連名発表者に会員がいる場合は、**事前申請により**筆頭発表者を変更することが可能です。
筆頭発表者になるのは 1 人 1 回限りですので、他の発表の筆頭者になっている方に変更はできません。
5. 配布資料がある場合は、必要部数を各自事前にご用意ください。印刷のご対応は一切できません。
また、配布も各自でお願いします。
6. 掲示したポスターは、セッション終了後 **15:20まで**に外し、掲示前の状態にもどして退室してください。
ごみは必ずお持ち帰りください。

研修講座のご案内 会場:神奈川大学みなとみらいキャンパス

研修講座① 8月22日(土) 10:00~12:00

(3階) 3007講義室

アジアの学校心理学と心理カウンセリング—マレーシア・台湾— 亞洲的學校心理學與心理諮商—馬來西亞・台灣—

司会進行・通訳 芳川玲子(星槎大学大学院)

講師 1)陳 如湘(University Technology Malaysia)
2)吳 毅宸(諮商心理師)
3)蔡 俞鈞(國立南科實驗高級中學專輔老師)
4)張 家群(臨床心理師)

指定討論 古屋 茂(秦野市教育委員会)

- 1) マレーシアの民族・学校文化と学校カウンセリング
(馬來西亞的民族與校園文化及校園輔導)
- 2) 台湾の大学における心理カウンセリングの現状と展望
(台灣的大學心理諮商現況與未來)
- 3) 台湾の小・中・高校における心理カウンセリングの現状と展望
(台灣的中小學與高中心理諮商現況與未來)
- 4) 台湾における臨床心理学の現状と将来の展望
(台灣的臨床心理現況與未來)

研修講座② 8月22日(土) 10:00~12:00

(5階) 5008講義室

子どもの“生きる力”を支える『横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち』 —家族・多職種の協働から考えるウェルビーイング—

司会進行 末岡 洋一(横浜市磯子図書館)

講師 田川 尚登(認定 NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事)
塚越 美和子(認定 NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト)

病気や障害、不安や喪失を抱える子ども、そしてその家族が、安心して「そのままいてくれる」場は、どのような関わりや工夫によって支えられているのか。事例や語りを通して、子ども一人ひとりの状態を多面的に捉えるアセスメントと、安心と尊重を基盤とした関係性の構築が、心理的安全性やウェルビーイングをどのように支えているのかを考える。学校という日常の場において、専門性を生かしながら人と人をつなぎ、協働を通してウェルビーイングを根づかせていくための視座を共有する機会とする。

かながわの支援教育
－「心理に強い教員」の養成－

司会進行	持田訓子(横浜創英大学)
話題提供	田村 順一(学校心理士会神奈川支部 副支部長) 内山 慶子(神奈川県立総合教育センター) 奥村 美由(逗子市教育研究相談センター)
指定討論	会沢 信彦(文教大学) 水野 治久(大阪教育大学)

神奈川県では、共生社会の実現に向けて、「支援教育」の理念のもとにインクルーシブ教育を全国に先駆けて推進してきました。とりわけ、その中核を担う「教育相談コーディネーター」の養成においては、文部科学省が進める「心理に強い教員の資質向上プログラム」を先取りする先進的な取り組みを展開しています。しかし、学校現場では、子どもの教育的ニーズが多様化・複雑化する中、チームとして有機的に機能しにくいという課題も依然として見られます。本シンポジウムでは、「組織マネジメント」「専門性の協働」「人材育成」という3つの視点から神奈川の実践を紐解き、これからの学校心理士(教員・心理職)に求められる力やチームづくりのあり方について再考します。

神経発達症の理解

司会進行	北村 耕一(横浜国際臨床発達支援協会)
講師	柴田 光規(社会福祉法人青い鳥 川崎西部地域療育センター)

演者が勤務する地域療育センターには18歳までの発達に心配される子どもと保護者が来所する。最近では子どもの5人に1人が来所している計算になる。実は、子どもの発達特性そのものが問題になることは多くない。問題が生じるのは、発達特性を持つ子どもと保護者、その周囲にある社会との関係性がうまくいかない時である。私たちは子どもの特性や周囲との関係性を適切に理解しようと努め、それを子どもや保護者と共有しながら今後の生き方を一緒に考えて行きたい。それができると子どもは特性を持ちながら、自分のペースで生き生きと伸びていく。演者が医療・福祉の場で子どもと保護者から教えてもらったことを伝え、今後の皆さんの学校での支援に活かしてもらえれば幸いである。

キーワード #神経発達症 #周囲との関係性 #困った行動は子どものSOS

学校ですぐできるSEL
ーいろいろな授業に生かしてみようー

司会進行 古屋 茂(秦野市教育委員会)

講師 渡辺 弥生(法政大学)

講師協力 木村 愛子(藤沢市立大清水小学校)
斎藤 裕介(埼玉県三郷市立瑞木小学校)
澤田 葉月(法政大学大学院人文科学研究科)

ソーシャルエモーショナルラーニング(SEL)は、特別なプログラムではなく、日々の授業にそっと息づく身体で言えば"ミネラル"のに値する教育のあり方です。知識の理解や定着だけでなく「楽しい」「難しいけれどももう一度やってみたい」「ワクワクする」といった心の動きを大切にすることで、学びは深まり子どもたちは自ら前に進む力を育てていきます。本ワークショップでは、どの教科にも活かせる具体的な視点と実践を共有します。ぜひ一緒に。

災害支援について考える
ー星槎グループ・相双地区における15年間の支援活動ー

司会進行 北村 耕一(横浜国際臨床発達支援協会)

講師 西永 堅(学校法人国際学園 星槎大学)
尾崎 達也(学校法人国際学園 星槎国際高校)

指定討論 山谷 敬三郎(日本学校心理士会 会長)

星槎グループは、2011年3月11日東日本大震災の直後から、福島県相馬市、南相馬市等相双地区において、宮澤保夫名誉会長を中心に、東京大学医科学研究所の協力のもと、震災復興支援の活動を行ってきた。相双地区は、地震と津波、さらに、原子力発電所事故の被害にあった地域である。現在でも、南相馬市の小中学校を中心に、心理支援や学習支援を行っている。復興支援は、マイナスからゼロに戻すことが目指されがちであるが、われわれはプラスの成長を目指した支援を目指してきたため、震災後15年における持続可能な支援につながったと考えられる。また、子どもの発達、認知発達に合わせた支援を行うことは、震災をどのように認知していくかを支えることであり、さらに、日々の学習支援にもつながっていくと考えられる。合理的かつ持続可能性のある支援の重要性について検討していきたい。

キーワード 震災支援 持続可能性 認知発達

トラウマインフォームドケア
ートラウマからの回復と社会の修復ー

司会進行 名古屋 学(横浜薬科大学)

講師 野坂 祐子(大阪大学)

長年の臨床活動をもとにトラウマにアプローチするための基礎知識と臨床知見を多くの事例を通して解説していただきます。またトラウマによって傷つき、回復を必要としているのは個人だけでなく社会ではないかという視点も興味深く、トラウマを抱える人だけでなく支援者の力も引き出してくれます。特に今回の研修では、逆境体験を乗り越え、再トラウマを防ぐためのトラウマの知識と見立て、基本的な援助スキルなどを学びます。

含攝儒釋道智慧之心理學與心理治療
和訳「儒教・仏教・道教の叡智を統合した心理学と心理療法」

司会進行・通訳 芳川 玲子(星槎大学大学院)

講師 夏 允中(國立高雄師範大學)

指定討論 石隈 利紀(日本学校心理学会 会長)

This presentation critiques the tendency of non-Western social sciences to rely on naïve empiricism, either by uncritically applying Western theories or by assuming that theory emerges solely from data accumulation. It highlights Confucianism, Buddhism, and Daoism as sharing a common emphasis on self-cultivation as the foundation of health, happiness, and human fulfillment, rooted in an integrated cultural tradition shaped over two millennia. Because this wisdom does not yet conform to the Western scientific paradigm, the presentation addresses how it can be systematically transformed into a psychology of self-cultivation that guides both empirical research and practice. Drawing on Professor Hwang Kwang-Kuo's multiple philosophical paradigms framework, it proposes a four-stage process—from formal and substantive theory construction to research integration and practical application—aimed at establishing an autonomous, culturally grounded social science that contributes to global human well-being.

本発表は、非英米圏の社会科学において見られる、西洋理論の無批判な適用や、データ蓄積のみで理論が生成されとする素朴な実証主義の限界を問題提起する。その上で、儒教・仏教・道教に共通する「修養」を中心概念とする思想的知恵に着目し、健康・幸福・人間的成長を支えてきた文化的基盤としての意義を明らかにする。儒釈道の知は、二千年近くにわたり人々の心理や行動に影響を与えてきたが、西洋科学の枠組みでは十分に理論化されてこなかった。本発表では、黄光国教授の多重哲学的パラダイムを手がかりに、儒釈道文化を基盤とした「修養心理学」の理論構築プロセスを提示する。形式理論・実質理論の構築から、実証研究の統合、実践への応用に至る枠組みを示し、文化的文脈に根ざした自律的な学校心理学の発展と、児童生徒および教職員のウェルビーイングへの貢献を目指す。

**アセスメントとケースフォーミュレーション
ー認知行動療法を使いこなすためにー**

司会進行 杉崎 雅子（小田原短期大学）

講師 下山 晴彦（跡見学園女子大学）

本講座はSV研修の「スーパービジョンとコンサルテーション」領域になります。

学校教育の分野においては認知行動療法を適切に活用するための方法をテーマとします。特に児童生徒の置かれた状況に即して問題の成り立ちを理解し、それを本人だけでなく、必要に応じて保護者や教員に伝えて柔軟に支援を組み立てていくために必要となるアセスメントとケースフォーミュレーションを解説します。強迫症のケースの映像教材などを活用し、問題理解の実際をイメージできるように工夫をし、認知行動療法のワークなども取り入れて実践的な講義とします。

**学校で災害時に命を守る・救うために必要なものは？
ー救急・災害医療、防災教育、学校安全の視点からー**

司会進行 伊藤 琢也（川崎市教育委員会）

講師 山崎 元靖（神奈川県健康医療局 医務担当部長）
大木 聖子（慶應義塾大学環境情報学部）

本講座はSV研修の「法と倫理」領域になります。今回は生命倫理を中心とした内容になります。

災害時は、なによりも命を守る、あるいは命を救う行動が最も重要であることは論を待ちません。学校管理下での地震災害では、児童生徒や教職員に怪我人が出たり、過呼吸や腰が抜けて歩けない状態になったりしています。けが人想定なしの訓練で本当に命が守られるのでしょうか。学校で命を守り、救うために必要なものは何か？児童や生徒に身に着けてもらいたいものは何か？DMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム）の活動をはじめとする災害医療や救急医療の現場の視点、そして災害時のコミュニケーション、防災教育、学校安全の研究者の視点を交えながら、学校心理士スーパーバイザーの皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

『やる気』『意欲』と学校心理士の役割
ーモチベーションの心理学ー

司会進行 蒲地 啓子(元帝京大学)

講師 鹿毛 雅治(慶応義塾大学)

本講座は SV 研修「その他」領域になります。

やる気をもって意欲的に取り組む子どもたちの姿は教師の理想であるに違いない。そこで教師たちは子どもたちのやる気や意欲を出させようと、あの手、この手を駆使するが、必ずしもうまくいくわけではない。やる気、意欲は複雑な心理現象だからである。本講座ではやる気や意欲の心理学的なメカニズムについて、モチベーション心理学の理論を紹介し、学校における教育的な関わりのあり方について理解をともに深めていくとともに、学校心理士の役割について考えたい。

キーワード:やる気、意欲、モチベーション

司会進行 岩澤 一美(星槎大学大学院)

聴くということ ー相手の心に目を向け体験を聴くー

前半講師 半田 一郎(守谷カウンセリング・リソースポート、茨城県スクールカウンセラー)

支援の基本は、相手の話をよく聴くことにあります。しかし、話を聴いていると、自分の考えを言いたくなることが多いのではないかと思います。それを我慢して聴くのは誰にとってもつらいものです。実は、話をよく聴こうとして、相手の置かれた状況を聴いていると、自分の考えが自然にわいてくるのです。相手の話を聞けば聞くほど、自分の考えがわいてくるため、それを押さえつけることは大変な作業になります。実は、話を良く聴くためには、状況ではなく相手の心に目を向け、体験を聴こうとすることが重要なのです。そもそも、心理的な支援を行うためには、相手の心に目を向けることは極めて重要なことなのですが、忘れがちなのかもしれません。本講座では、その重要性和具体的な方法をお伝えします。

聴くということ-相手の心に目を向け体験を聴く ーミニミニカウンセリングを体験してみようー

後半講師 田村 節子(一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター)

「聴くということ - 相手の心に目を向け体験を聴く」研修は、傾聴の基本を実践的に学ぶためのプログラムです。特に後半の1時間では、初心者の方を対象に、話し手・聴き手・観察者の3つの役割を体験するロールプレイを通じて、「聴く」ことの奥深さを体感します。単なる技法の習得に留まらず、相手の感情や願いに寄り添い、安心・安全な場で自身の体験を分かち合う「姿勢」を育むことを目的としています。具体的な進め方や振り返りのポイント、大切な約束事を確認しながら、参加者全員で「聴く」力を深めていきます。

大会講演・シンポジウムのご案内 会場:関内ホール 大ホール

開会セレモニー/基調講演 8月23日(日) 10:00~12:00

ウェルビーイングの学校創り

司会進行 家近 早苗(日本学校心理学会 理事長)

講師 総崎 由希(文部科学省生徒指導室 室長)
星 匡哉(こども家庭庁 企画官)

指定討論 石隈 利紀(学校心理士認定運営機構 会長)
山谷 敬三郎(日本学校心理士会 会長)

文部科学省は、第4期教育振興基本計画などで、子どものウェルビーイング向上を政策目標に掲げ、さらにその実現のための学校創りについても様々な取り組みを進めようとしている。また、こども家庭庁においても、子どもを「こどもまんなか」に置いたスタンスで、子どもの「安心できる居場所」や子どもが「自己肯定感」を持てるような学校創り、地域や家庭と連携した「開かれた学校づくり」などを指標として、文部科学省と協働して取り組みを始めています。今回はこのような取り組みを共有し、ともに「ウェルビーイングの学校創り」について学び考えていきたい。

日本学校心理学会 授賞式・表彰式/教育講演 8月23日(日) 13:00~14:30

石隈利紀学校心理学貢献賞受賞者講演 学校心理学を学んで

司会進行 名古屋 学(日本学校心理学会 副理事長)

講師 上村 恵津子(信州大学)

学校心理学との出会いにより、自身の実践を方向づける多くの手がかりを得ることができました。その中でも特に印象に残っている学びについてお話しします。

不登校支援

- 司会進行 岡田 守弘(横浜国立大学名誉教授)
芳川 玲子(星槎大学大学院)
- 話題提供 1)「0歳からの不登校未然防止」 岸あずさ(厚木市教育委員会)
2)「横浜プログラム」 蒲地啓子(元帝京大学、元横浜市教育委員会)
3)「学びの多様化学校の取り組み」 蓮田亮大(星槎大学、マイスター)
- 指定討論 総崎 由希(文部科学省生徒指導室 室長)
星 匡哉(こども家庭庁 企画官)
石隈 利紀(東京成徳大学)

今や不登校現象は、アジア諸国においても深刻な社会的課題となっている。そのようななか、不登校現象を「個人の問題から社会やシステムの問題」として捉えるようになってきている。このような状況の中で、本シンポジウムにおいては、「厚木市の0歳からの不登校未然防止の取り組み」や「社会情動的な学びに視点をおいた横浜プログラム」、「星槎学園における学びの多様化学校の取り組み」など、国内において今話題となっている取り組みを紹介し、今後の不登校支援の在り方について会場の皆様とともに考えていく機会としたい。

ポスター論文一覧

在席責任時間 前半／13:00～14:00 : 奇数番号

後半／14:00～15:00 : 偶数番号

○印: 筆頭発表者 #印: 会員以外の連名発表者 を示します。

- 1 **安心不足の早期アセスメントを基盤とした CO 中心の校内支援プロセスの実践報告**
 小川 真由美 川崎市立小学校
- 2 **5 歳児健康診査に対する認識の検討**
 —研修受講者の自由記述分析—
 ○ 岡本 かおり 洗足こども短期大学
 重松 清文 品川区保育施設運営課
- 3 **CARES において高優先度不足情報は背景仮説生成においてどのように保持されるか**
 工藤 浩二 東京学芸大学教育学部
- 4 **中学校時の登校価値観に関する研究 (1)**
 —大学生を対象にした調査から—
 ○ 津川 秀夫 吉備国際大学人間科学部
 寺田 和永 福山大学人間文化学部
- 5 **中学校時の登校価値観に関する研究 (2)**
 —登校価値観が登校行動に及ぼす影響—
 ○ 寺田 和永 福山大学人間文化学部
 津川 秀夫 吉備国際大学人間科学部
- 6 **中学校社会科における「目標達成度の高い授業」を目指して**
 —九州地方「自然と人々の暮らし」を通した授業実践報告から—
 ○ 駒木 浩二 取手市立高井小学校
 瀧 光彦 元東京学芸大学
 茂呂 輝夫 大和大学
- 7 **中学生の学習行動に関する自己理解支援 (1)**
 —ESQ-R 日本語版の信頼性・妥当性の検討—
 ○ 寺坂 明子 大阪教育大学総合教育系
 吉田 かえで 大阪教育大学附属池田中学校
- 8 **中学生の学習行動に関する自己理解支援 (2)**
 —支援ツールを用いた実践とその評価—
 ○ 吉田 かえで 大阪教育大学附属池田中学校
 寺坂 明子 大阪教育大学総合教育系

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

9 保護者から見た子どもの対話型生成 AI 利用

—利用実態、心理的影響の認識、対策の検討—

- 堀 祐大朗 株式会社 Awarefy アウェアファイこころの総合研究所/東京大学大学院
- # 武井 由紀 株式会社 Awarefy アウェアファイこころの総合研究所
- # 姜 静愛 株式会社 Awarefy アウェアファイこころの総合研究所/新潟大学大学院
- # 高階 光梨 株式会社 Awarefy アウェアファイこころの総合研究所/産業医科大学大学院

10 保護者の被養育経験と子どもへの養育態度

- 森村 瑞枝 聖徳大学教育学部
- 家近 早苗 高崎健康福祉大学人間発達学部

11 個別の指導計画の活用に向けたアセスメントと専門家支援の一考察

- 照沼 あずさ 川崎市立東住吉小学校/星槎大学大学院
- 松本 恭子 静岡県吉田町立吉田中学校/星槎大学大学院

12 児童が重視するウェルビーイングの価値観

—フィリピン現地校におけるウェルビーイングカードを用いた道徳授業の実践—

- 小島 淳之介 千葉大学大学院
- # 下川 佳悟 千葉大学大学院
- # 岸根 美和 東庄町立東庄小学校

13 医療と繋がる相談機関が地域に果たす役割の検討

- 藤田 絵理子 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 前田 真範 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 篠崎 浩平 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 釣本 享子 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 南野 友里 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 土井 大地 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 上野 和久 和歌山県立医科大学小児学講座
- # 岡本 光代 和歌山県立医科大学保険看護学部
- # 北岡 大輔 和歌山大学教育学部

14 品川版 5 歳児健診における学校心理士の役割と課題

- 三井 菜摘 品川区保育施設運営課
- 重松 清文 品川区保育施設運営課
- 堂山 亜希 目白大学
- 三浦 巧也 東京農工大学

15 大人からの褒められ方と児童のマインドセットおよびスクール・エンゲージメントの関連

- 千代延 亜依 目白大学大学院心理学研究科
- 杉本 希映 目白大学大学院心理学研究科

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

16 学びのユニバーサルデザインによる一次的支援の有効性

—学力層別分析に基づく検討—

- 大橋 均 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科
- 西山 久子 福岡教育大学
- 納富 恵子 下関市立大学

17 学級目標の活用に関する課題と困難感の検討

藤原 寿幸 横浜国立大学

18 学級経営の実践における自他認知とその効果

—コミュニケーションツールを用いた実践—

- 森田 美紀 日本学校心理士会兵庫支部
- # 福田 佳宏 尼崎市立園和小学校

19 対人援助職養成校学生「芸術療法プチ体験」での学び

—「空のコップ塗り絵」の「梓と自由」がもたらす効果—

津江 美和 高知福祉専門学校

20 小学校におけるストレスコーピングの授業

「気持ちを楽しめるくふう」の教材化と実践

吉澤 壽一 公立小学校

21 小学校社会科における「質の高い授業」を目指して

—小学校4年生「飲料水確保の問題」を通した授業実践報告から—

- 茂呂 輝夫 大和大学
- 駒木 浩二 取手市立高井小学校
- 瀧 光彦 元東京学芸大学

22 探究型調理実習の実践

—海外フィールドワーク事前学習として—

日下 典子 開智望中等教育学校

23 援助要請に着目した授業の実践と尺度の活用

—尺度を活用したワークシートの開発—

石垣 ちはる 沖縄県立八重山農林高等学校

24 教科教育実践と予防的生徒指導

—対人関係スキル教育を中学校英語科へ取り込む試み—

- 大塚 絵理 大阪教育大学連合教職大学院
- 水野 治久 大阪教育大学総合教育系

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

25 日本語版児童生徒用学業バーンアウト・エンゲージメント尺度の開発

—予備的検討—

- 大西 将史 福井大学教育学部
- 廣澤 愛子 福井大学教育学部

26 朝の短学活における SGE の実践とその効果

—児童間の信頼関係の構築に着目して—

- 立野 沙和 福岡教育大学大学院教育学研究科
- 山田 洋平 福岡教育大学大学院教育学研究科

27 気になる子供に対する臨床動作法の実践～心とからだの変容について～

三好 敏之 尚絅学院大学心理学類

28 特別支援学校高等部生徒の父親への教育相談に関する調査報告

- 李 受眞 順天堂大学
- 橋本 創一 東京学芸大学

29 留学生の母語以外の言語習得に至る過程

—TEM による検討—

別府 結起 東京福祉大学大学院心理学研究科

30 社会科における論争問題学習にアサーションを取り入れた授業実践が生徒の安心感と人間関係に及ぼす影響 —異質拒否, 被異質視不安および適応感の視点から—

鈴木 聖矢 富山市立奥田中学校
石津 憲一郎 富山大学

31 非言語性知能検査を活用したアセスメントの試み

— CLD 児のチームアセスメント —

- 島田 直子 秀明大学
- 鈴木 ゆみ 関西学院千里国際キャンパス
- 栗原 友佳 市立札幌大通高等学校

32 高校に求められるキャリア発達支援の変容

—2012・2026 年のニーズ比較—

- 三苫 由美子 福岡県公立高校/福岡教育大学大学院
- 西山 久子 福岡教育大学

33 高校生の社会観と被援助志向性の関連

—日本とインドの国際比較調査—

- 田村 修一 松蔭大学コミュニケーション文化学部
- ニシャート・アニーシャ 東日本国際大学健康福祉学部

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

- 34 高校生版社会情動的スキル尺度の構造と変化検出力の予備的検討**
○ 原田 恵理子 東京情報大学
杉本 希映 目白大学
小高 佐友里 東京成徳大学
青山 郁子 都留文科大学
渡辺 弥生 法政大学
- 35 高等学校の社会科(「地理歴史」「公民」)学習の土台となる中学校社会科の授業実践
—公民的分野「現代社会と私たち」の授業を通じた実践報告から—**
○ 瀧 光彦 元東京学芸大学
茂呂 輝夫 大和大学
駒木 浩二 取手市立高井小学校
- 36 高等学校地理探求における主体的課題解決を促す授業設計に関する研究
—学びのユニバーサルデザインを活用して—**
○ 俵 雄大 福岡県公立高等学校
西山 久子 福岡教育大学
- 37 「チーム学校」で行う不登校支援体制の構築**
阪本 明美 北九州市立石峯中学校
- 38 SSTとPBSを組み合わせた支援と社会的スキルの変化**
○ 関 勝利 川越市立南古谷小学校
一色 翼 川口短期大学
会沢 信彦 文教大学
- 39 いじめにおける傍観行動と共感性、道徳不活性化の関係**
○ 豊田 彩恵 目白大学大学院心理学研究科
杉本 希映 目白大学大学院心理学研究科
- 40 いじめの初期認知プロセスに関する文献的考察
—小学校の構造的特性と組織的対応の課題—**
小沼 豊 北海道教育大学
- 41 いじめ停止行動に対する自己効力感と共感性・いじめ否定規範・アサーティブとの関連**
○ 河津 恵子 愛知教育大学大学院
五十嵐 哲也 愛知教育大学
- 42 インターネットニュースにおける著名人自殺報道の分析
—2020年9月14日に配信された記事を対象として—**
藤原 幸子 九州医療科学大学社会福祉学部

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

43 不登校経験のある青年の回想による援助者への想いに関する質的研究

- 小林 智美 江戸川区教育相談センター
- 工藤 浩二 東京学芸大学

44 中学校での進路・キャリア面に関する授業実践における不登校予防への一次・二次効果

- 江角 周子 東京学芸大学
- 五十嵐 哲也 愛知教育大学
- # 寺戸 武志 上越教育大学
- 林 亜希恵 福井大学
- # 神崎 園子 名桜大学

45 中学校における SOS 教育の実践

—発信を支える授業と環境づくり—

- 小松 千晶 三重大学教職大学院
- 瀬戸 美奈子 三重大学教育学部

46 事例研究

私立男子校(中学校・高等学校)におけるいじめ防止教育体制の一考察

- 原 健一 藤嶺学園藤沢中学校・高等学校

47 児童の基本的自尊感情とレジリエンスを育

SOS の出し方に関する教育の実践的研究

- 内野 陽子 福岡教育大学教職大学院教育学研究科
- 山田 洋平 福岡教育大学教職大学院教育学研究科

48 児童思春期支援を行う援助者が対応困難と感じる子どもの不適応行動に関する探索的検討

—アタッチメント理論とトラウマインフォームドケアの視点から—

- 田中 美千子 杏林大学保健学部
- 安藤 智子 筑波大学人間系

49 大学初年次教育におけるストレス対処トレーニングの実践

—背中たたきと10秒呼吸法を中心に—

- 川上 雄一郎 日本文理大学経営経済学部

50 学校危機時の緊急支援で求められる支援内容の標準化に向けた研究

—予防開発的心理教育の視点から—

- 松浦 正一 帝京平成大学健康メディカル学部
- 石隈 利紀 東京成徳大学応用心理学部

51 学校風土の視点から捉える小学生の不登校傾向

—TSECとの関連を含めて—

- 中島 亮 入善町立飯野小学校
- 石津 憲一郎 富山大学

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

52 学級内のからかい場面における第三者の行動に関連する要因の検討

- 鈴木 伸子 愛知教育大学教育学部
- 石田 靖彦 愛知教育大学教育学部

53 学校風土がレジリエンススキルおよび不登校傾向に与える影響

—小学生を対象としたマルチレベル分析—

- 小林 朋子 静岡大学

54 小・中学校でいじめを抑止せずに傍観することの長期的影響

- 香取 早苗 放送大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター

55 小学生におけるいじめの被害・加害経験とストレス症状・授業・家庭環境との関連

- 生方 直 上越教育大学 いじめ・生徒指導研究研修センター
- # 大門 秀司 上越教育大学 いじめ・生徒指導研究研修センター

56 市販薬の過量服薬または自傷や自殺企図歴を持つ生徒への教職員の対応経験の検討

- 山本 美久 北里大学
- # 村瀬 華子 北里大学
- # 近藤 あゆみ 国立精神・神経医療研究センター
- # 岡部 友峻 北里大学/日本学術振興会
- # 松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター
- # 嶋根 卓也 国立精神・神経医療研究センター

57 当院を受診した不登校児童生徒の転帰

- 高野 真 たかの発達リハビリクリニック

58 自傷行為者からの相談体験と心理的葛藤

—友人としての立場から—

- 栗本 夏織 専修大学大学院
- 高田 夏子 専修大学

59 通信制高校生の生活習慣と精神的健康の変化

—セルフコントロールに着目して—

- 松本 麻友子 立命館大学産業社会学部

60 進路・キャリア面に関する授業実践は中学生における不登校の予兆を低減させるか

- 五十嵐 哲也 愛知教育大学
- 江角 周子 東京学芸大学
- # 寺戸 武志 上越教育大学
- 林 亜希恵 福井大学
- # 神崎 園子 名桜大学

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

61 運動系部活動に所属する中学生の部活動適応感を高めるために何ができるか

—ブレインストーミングの記述をもとに—

- 中原 飛鳥 北海道教育大学大学院教育学研究科
- # 斉藤 ふくみ 九州女子短期大学子ども健康学科

62 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(2)

—中学生の日常記録データからみた生活習慣の特徴—

- 石隈 利紀 東京成徳大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 山口 豊一 成徳大学
- 中井 大介 埼玉大学
- 新井 雅 跡見学園女子大学
- 池田 裕一 昭和大学

63 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(3)

—中学生の日常睡眠記録からみた社会的時差ぼけと登校意欲低下の関連—

- 池田 裕一 昭和大学小児科学講座
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター

64 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(4)

—中学生の日常記録データからみた生活習慣要因と登校回避傾向の関連—

- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター
- 池田 裕一 昭和大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 山口 豊一 成徳大学
- 中井 大介 埼玉大学
- 新井 雅 跡見学園女子大学
- 石隈 利紀 東京成徳大学

65 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(5)

—中学生の日常記録データからみた家庭・人間関係要因と登校回避傾向の関連—

- 山口 豊一 成徳大学
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター
- 池田 裕一 昭和大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 中井 大介 埼玉大学
- 新井 雅 跡見学園女子大学
- 石隈 利紀 東京成徳大学

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

66 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(6)

—中学生の「ひとこと日記」データによる児童生徒理解と心理状態把握—

- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 池田 裕一 昭和大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 山口 豊一 成徳大学
- 石隈 利紀 東京成徳大学
- 中井 大介 埼玉大学
- 新井 雅 跡見学園女子大学

67 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(7)

—Pre-Post 調査による P-Lin 導入前後の生徒の変化の検討—

- 中井 大介 埼玉大学
- 新井 雅 跡見学園女子大学
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 池田 裕一 昭和大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 山口 豊一 成徳大学
- 石隈 利紀 東京成徳大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター

68 子ども支援アプリ『ぷりん P-Lin®』を活用した児童生徒支援に関する研究(8)

—Pre-Post 調査による P-Lin 導入前後の教師の変化の検討—

- 新井 雅 跡見学園女子大学
- 中井 大介 埼玉大学
- 石川 満佐育 鎌倉女子大学
- 池田 裕一 昭和大学
- 八並 光俊 東京理科大学
- 山口 豊一 成徳大学
- 石隈 利紀 東京成徳大学
- 田村 節子 一般社団法人スクール・セーフティネット・リサーチセンター

69 SaSaLAND モデルから考えるこれからの教育支援センターの在り方(6)

—アウトリーチとメタバース支援の連携—

- 三和 秀平 信州大学
- # 神原 井 長野市教育委員会
- 茅野 理恵 信州大学
- 下山 真衣 信州大学
- 瀧 直也 信州大学
- # 大日方 博 SaSaLAND
- # 中村 和孝 中野市立南宮中学校
- # 轟 博和 長野市教育委員会
- # 小林 清一 長野市教育委員会
- # 秋山 拓也 長野市教育委員会

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

70 SaSaLAND モデルから考えるこれからの教育支援センターの在り方(7)

—子どもの不登校に付随して保護者に生起する変化に伴う困難のプロセス—

- 茅野 理恵 信州大学
- # 川岸 歩実 城西病院
- 下山 真衣 信州大学
- 三和 秀平 信州大学
- 瀧 直也 信州大学
- # 大日方 博 SaSaLAND
- # 中村 和孝 中野市立南宮中学校
- # 轟 博和 長野市教育委員会
- # 小林 清一 長野市教育委員会
- # 秋山 拓也 長野市教育委員会

71 SaSaLAND モデルから考えるこれからの教育支援センターの在り方(8)

—子どもの不登校に付随して保護者に生起する変化に対する効果的なサポート—

- 下山 真衣 信州大学
- # 川岸 歩実 城西病院
- 茅野 理恵 信州大学
- 三和 秀平 信州大学
- 瀧 直也 信州大学
- # 大日方 博 SaSaLAND
- # 中村 和孝 中野市立南宮中学校
- # 轟 博和 長野市教育委員会
- # 小林 清一 長野市教育委員会
- # 秋山 拓也 長野市教育委員会

72 ASDと特定分野に特異な才能を併せ持つ児童への学校心理学的アプローチの実践

大久保 光弘 さいたま市立沼影小学校

73 SSR(スペシャルサポートルーム)の実践と運営

—「チーム学校」と個別最適化による支援—

石井 雄大 埼玉県公立小学校

74 ギフテッド児の「生きづらさ」を生み出す要因

—保護者自由記述の内容分析—

- 佐伯 裕美 ギフテッド応援隊
- 樋口 優子 ギフテッド応援隊
- # 日高 茂暢 佐賀大学
- # 是永 かな子 高知大学
- 飯田 順子 筑波大学

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

75 外国にルーツをもつ子どもに対する担任教師による支援

—インタビュー調査を通して—

- 松本 碧 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
- 鈴木 伸子 愛知教育大学教育学部

76 就学移行期における発達障害児の保護者の意思決定プロセス

- 石川 菜津美 実践女子大学
- 飯田 順子 筑波大学

**77 特別支援学校における特性に応じた実践的訓練の検討と防災体制の関連
～南海トラフ重点受援地域を対象として～**

- 宇野 千登世 長野県稲荷山支援学校/吉備国際大学大学院心理学研究科
- 橋本 翠 吉備国際大学大学院心理学研究科
- 森井 康幸 吉備国際大学大学院心理学研究科
- 村上 勝典 吉備国際大学大学院心理学研究科

**78 特別支援学校高等部における「学び合いの場」の展開
—3年間の協働的实践—**

- 松本 宜明 大阪教育大学附属特別支援学校

**79 知的才能児特異的な脳活動
—fNIRS 脳機能イメージングによる検討—**

- 檀 一平太 中央大学社会理工学部

80 知的障害のあるダウン症児の記憶特性に応じた指導・支援に関する検討

- 山口 遼 国立特別支援教育総合研究所
- 李 受眞 順天堂大学
- 松田 千皓 東京学芸大学
- 橋本 創一 東京学芸大学

**81 通常の学級と通級指導教室の連携に関する調査
—実施形態と連携の状況の関連—**

- 竹村 洋子 国立特別支援教育総合研究所
- # 笹森 洋樹 常葉大学教育学部

**82 鈴木ビネーⅡ(SB - Ⅱ)の開発作成と活用について
—1人1人の「学びの特性」に応じた支援に向けて—**

- 松田 千皓 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
- 橋本 創一 東京学芸大学
- 熊谷 亮 宮城教育大学
- 田中 里実 青山学院大学
- 山口 遼 国立特別支援教育総合研究所

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

83 障害理解教育を基礎づける社会の関心

—発達障害記事の12年間の変遷—

今野 博信 室蘭工業大学

84 高等学校における発達障害のある生徒の校内支援体制および授業内支援に関する調査研究

- 竹達 健顕 東京農工大学
- 橋本 創一 東京学芸大学
- 三浦 巧也 東京農工大学
- 日下 虎太朗 明治学院大学

85 「強み」の授業と「強みの活用記録」に対する教師のフィードバックの効果

- 石田 靖彦 愛知教育大学教育学部
- # 宇都木 秀太 岡崎市立広幡小学校
- 鈴木 伸子 愛知教育大学教育学部
- 鈴木 美樹江 愛知教育大学教育学部

86 スクールカウンセラーの効果的な活用に向けて

—中学生への意識調査から—

- 池上 潮理 福島県スクールカウンセラー
- 石隈 利紀 東京成徳大学

87 チーム担任制における学級経営に求められる視点と理想の学級像

- 四辻 伸吾 大阪教育大学
- 水野 治久 大阪教育大学

88 不確実性の中で求められる確実な出会い

—学級懇談会に関する探索的検討—

一色 翼 川口短期大学こども学科

89 中学校・高等学校教員の生徒指導観と学校組織風土および心理的安全性との関連

- 佐々木 聡 湊川短期大学
- # 田中 雄也 寝屋川市立第七中学校

90 中学校教師の職場風土の認知

—上司への信頼、被援助志向性、バーンアウトの視点から—

- 田畑 悟 射水市立新湊南部中学校
- 石津 憲一郎 富山大学

91 中学生の社会的能力の般化と教師のSEC向上に向けたSEL-8S学習プログラムの実践的研究

- 山川 真紀子 福岡教育大学教育学研究科
- 山田 洋平 福岡教育大学教育学研究科

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

- 92 乳幼児期の対人葛藤場面における保育者の困難感構造
—子どものウェルビーイングを支える省察支援に向けた予備的検討—
三木 美香 畿央大学教育学部
- 93 保育現場における里親子支援の実践
—保育者へのインタビュー調査から—
○ 安藤 みゆき 茨城女子短期大学
助川 夏菜 敬愛短期大学
平田 修三 仙台青葉学院短期大学
細川 梢 福島学院大学
中島 美那子 茨城キリスト教大学
- 94 保育者・教員養成における保幼小接続に関する予備的検討
—保育内容「言葉」と国語科教育法のテキスト分析を通して—
小里 直通 東京家政大学子ども支援学部
- 95 保護者面談ロールプレイにおける学び
—生成 AI を用いた評価の試み—
○ 濱口 綾子 三重大学教職大学院
瀬戸 美奈子 三重大学教育学部
- 96 児童が捉える教師像と学級風土との関連
—学級が1年間うまく機能するために—
○ 寶田 光平 上市町立上市中央小学校
石津 憲一郎 富山大学
- 97 初任者教員の教育相談の目的に関する研究
富田 賢一 富山市立 山室中学校
- 98 大学生のロールフルネスと心理的 well-being との関連
○ 中村 紗弓 愛知教育大学大学院教育学研究科
鈴木 伸子 愛知教育大学大学院教育学研究科
- 99 学校生活スキルに基づく類型化からみた教師の関わりと学校内問題行動の関連
○ 西村 晃一 摂南大学 全学教育機構
河野 莊子 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科
- 100 対面・オンライン・メタバースによる教師の世代間交流ワークショップの比較検討
○ 植木 克美 北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻
中島 平 東北大学教育学部
渡部 信一 東北大学名誉教授

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

101 小中学校教師の援助要請ネットワークと悩み、ストレスとの関連

—新任と非新任教師のデータを用いた検討—

酒井 麻紀子 愛知教育大学

102 小学校における多職種連携の構造分析

—教員・SC・SSW の事例理解水準に着目して—

○ 大山 卓 中部大学現代教育学部

吉田 朋美 豊明市役所共生社会課

103 小学生の自律的学習動機づけと小学校教師の教科指導学習動機との関連

吉良 亜沙子 丹波篠山市立城南小学校

104 支援教育コーディネーター研修の実践と検討

—多職種連携による校内支援体制づくり—

○ 岡安 朋子 早稲田大学

相樂 直子 創価大学

山崎 沙織 鳥取県教育委員会

藤本 啓寛 筑波大学

飯田 順子 筑波大学

105 教員が援助要請をしやすくなる介入の検討

—研修でゆるいつながり「Tea-cle」を作る—

井上 良依 立命館大学人間科学研究科

106 教員養成系大学新入生の適応不安構造の解明

草野 剛 奈良学園大学人間教育学部

107 教師の多職種連携教育・研修に必要な構成要素

—スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの視点から—

○ 相樂 直子 創価大学

岡安 朋子 早稲田大学

108 教師は移行期支援をどのように認識しているのか

—尺度作成と学校種による比較検討から—

○ 杉崎 雅子 小田原短期大学

飯田 順子 筑波大学

109 教師版 Grit 尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討

○ 山本 裕貴 木更津市請西小学校

五十嵐 哲也 愛知教育大学

110 教職志望の背景にある被教育体験認識の研究

—過去の教師への信頼感の差異に着目して—

川崎 知己 千葉商科大学商経学部

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

111 教職志望学生のイラショナル・ビリーフが 心理的ストレスに与える影響

- 大石 菜未 久留米大学大学院心理学研究科
- # 古藤 栞太 久留米大学大学院心理学研究科
- # 吉良 悠吾 久留米大学文学部

112 教育相談場面におけるマスク着用・非着用生徒への感情理解についての教師の考え方

- 森田 健宏 関西外国語大学
- 田爪 宏二 京都教育大学
- # 吉田 佐治子 摂南大学

113 教育相談研修における教員の専門的力量形成の実態と課題

—全国調査による検討—

- 佐藤 菜穂子 芦屋市教育委員会
- 西山 久子 福岡教育大学大学院

114 日本の教師 well-being を構成する要素の検討

—国内を対象としたスコーピングレビュー—

- 五十嵐 健一 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
- # 阪上 弘彬 千葉大学
- # 大芦 治 千葉大学

115 校内教育支援センター運営における葛藤と調整

—教師へのインタビュー調査より—

- 宮本 宜美 三重大学教職大学院
- 瀬戸 美奈子 三重大学教育学部

116 模擬授業への取り組みが SC としての SEL 実践への効力感に与える効果

小高 佐友里 東京成徳大学

117 生徒の突然死を経験した養護教諭の心理的回復過程

—職務に対する価値観の変容に着目して—

大野 志保 大阪公立大学大学院看護学研究科

118 若手教師におけるリアリティ・ショックとバーンアウトの関連について

—イラショナル・ビリーフ, 感情信念および感情調整方略の視点から—

- 嶋津 弘文 富山市立速星小学校
- 石津 憲一郎 富山大学

119 行動データを活用した教員コンサルテーションにおける児童理解の再構成プロセス

浅野 浩子 近畿大学 教職教育部

在席責任時間 前半／13:00～14:00 :奇数番号

後半／14:00～15:00 :偶数番号

○印:筆頭発表者 #印:会員以外の連名発表者 を示します。

120 養護教諭を経験した女性教育管理職が定年退職を通して働くことを問い直す過程

—複線径路等至性モデリング(TEM)を用いて—

- 江原 美登里 東京都立蔵前工科高等学校
- 飯田 順子 筑波大学

121 養護教諭養成課程学生の相談活動に対する意識

—自由記述の共起ネットワーク分析—

- 坂本 理香 福井医療大学保健医療学部

122 高校生の認知および行動の特性と学習動機づけとの関連

—教師の支援意識との比較検討—

- 越島 淳子 大阪教育大学連合教職大学院
- 四辻 伸吾 大阪教育大学

人名索引

一あ行一		尾崎 達也	15	相樂 直子	36
会沢 信彦	14、27	一か行一		佐々木 聡	34
青山 郁子	27	鹿毛 雅治	19	笹森 洋樹	33
秋山 拓也	31、32	香取 早苗	29	佐藤 菜穂子	37
浅野 浩子	37	蒲地 啓子	19、22	澤田 葉月	15
新井 雅	30、31	上村 恵津子	21	重松 清文	23、24
安藤 智子	28	川上 雄一郎	28	篠崎 浩平	24
安藤 みゆき	35	川岸 歩実	32	柴田 光規	14
飯田 順子	32、33、36、38	川崎 知己	36	島田 直子	26
家近 早苗	21、24	河津 恵子	27	嶋津 弘文	37
五十嵐 健一	37	姜 静愛	24	嶋根 卓也	29
五十嵐 哲也	27、28、29、36	神崎 園子	28、29	下川 佳悟	24
池上 潮理	34	神原 井	31	下山 晴彦	18
池田 裕一	30、31	岸 あずさ	22	下山 真衣	31、32
石井 雄大	32	岸根 美和	24	末岡 洋一	13
石垣 ちはる	25	北岡 大輔	24	杉崎 雅子	18、36
石川 菜津美	33	北村 耕一	14、15	杉本 希映	24、27
石川 満佐育	30、31	木村 愛子	15	助川 夏菜	35
石隈 利紀	17、21、22、28、 30、31、34	吉良 亜沙子	36	鈴木 聖矢	26
石田 靖彦	29、34	吉良 悠吾	37	鈴木 伸子	29、33、34、35
石津 憲一郎	26、28、34、35、 37	日下 典子	25	鈴木 美樹江	34
一色 翼	27、34	日下 虎太朗	34	鈴木 ゆみ	26
伊藤 琢也	18	草野 剛	36	関 勝利	27
井上 良依	36	工藤 浩二	23、28	瀬戸 美奈子	28、35、37
岩澤 一美	20	熊谷 亮	33	一た行一	
植木 克美	35	栗原 友佳	26	大門 秀司	29
上野 和久	24	栗本 夏織	29	高階 光梨	24
内野 陽子	28	河野 莊子	35	高田 夏子	29
内山 慶子	14	越島 淳子	38	高野 真	29
宇都木 秀太	34	小里 直通	35	寶田 公平	35
宇野 千登世	33	小島 淳之介	24	田川 尚登	13
生方 直	29	小高 佐友里	27、37	瀧 直也	31、32
江角 周子	28、29	小沼 豊	27	瀧 光彦	23、25、27
江原 美登里	38	小林 智美	28	武井 由紀	24
大芦 治	37	小林 清一	31、32	竹達 健顕	34
大石 菜未	37	小林 朋子	29	竹村 洋子	33
大木 聖子	18	古藤 栞太	37	田爪 宏二	37
大久保 光弘	32	駒木 浩二	23、25、27	立野 沙和	26
大塚 絵理	25	小松 千晶	28	田中 里実	33
大西 将史	26	是永 かな子	32	田中 雄也	34
大野 志保	37	近藤 あゆみ	29	田中 美千子	28
大橋 均	25	今野 博信	34	田畑 悟	34
大日方 博	31、32	一さ行一		田村 修一	26
大山 卓	36	斉藤 ふくみ	30	田村 順一	14
岡田 守弘	22	斎藤 裕介	15	田村 節子	20、29、30、31
岡部 友峻	29	佐伯 裕美	32	俵 雄大	27
岡本 かおり	23	酒井 麻紀子	36	檀 一平太	33
岡本 光代	24	阪上 弘彬	37	茅野 理恵	31、32
岡安 朋子	36	坂本 理香	38	千代延 亜依	24
小川 真由美	23	阪本 明美	27	津江 美和	25
奥村 美由	14			塚越 美和子	13

津川 秀夫	23	松浦 正一	28
釣本 享子	24	松田 千皓	33
寺坂 明子	23	松本 恭子	24
寺田 和永	23	松本 俊彦	29
寺戸 武志	28、29	松本 麻友子	29
照沼 あずさ	24	松本 碧	33
土井 大地	24	松本 宜明	33
堂山 亜希	24	三浦 巧也	24、34
轟 博和	31、32	三木 美香	35
富田 賢一	35	水野 治久	14、25、34
豊田 彩恵	27	三井 菜摘	24
一な行一		三苫 由美子	26
中井 大介	30、31	南野 友里	24
中島 平	35	宮本 宜美	37
中島 美那子	35	三好 敏之	26
中島 亮	28	三和 秀平	31、32
中原 飛鳥	30	村上 勝典	33
中村 和孝	31、32	村瀬 華子	29
中村 紗弓	35	持田 訓子	14
名古屋 学	16、21	森井 康幸	33
西永 堅	15	森田 健宏	37
西村 晃一	35	森田 美紀	25
ニシャート・アニーシャ	26	森村 瑞枝	24
西山 久子	25、26、27、37	茂呂 輝夫	23、25、27
納富 恵子	25	一や行一	
野坂 祐子	16	八並 光俊	30、31
一は行一		山川 真紀子	34
橋本 創一	26、33、34	山口 豊一	30、31
橋本 翠	33	山口 遼	33
蓮田 亮大	22	山崎 沙織	36
濱口 綾子	35	山崎 元靖	18
林 亜希恵	28、29	山田 洋平	26、28、34
原 健一	28	山本 美久	29
原田 恵理子	27	山本 裕貴	36
半田 一郎	20	山谷 敬三郎	15、21
樋口 優子	32	芳川 玲子	13、17、22
日高 茂暢	32	吉澤 壽一	25
平田 修三	35	吉田 かえで	23
廣澤 愛子	26	吉田 佐治子	37
福田 佳宏	25	吉田 朋美	36
総崎 由希	21、22	四辻 伸吾	34、38
藤田 絵理子	24	一ら・わ行一	
藤本 啓寛	36	李 受眞	26、33
藤原 幸子	27	渡辺 弥生	15、27
藤原 寿幸	25	渡部 信一	35
古屋 茂	15	一海外一	
別府 結起	26	陳 如湘	13
星 匡哉	21、22	呉 毅宸	13
細川 梢	35	蔡 俞鈞	13
堀 祐大朗	24	張 家群	13
一ま行一		夏 允中	17
前田 真範	24		

日本学校心理士会第 20 回大会・日本学校心理学会第 28 回大会

合同実行委員会

顧問

岡田 守弘 内山 慶子

合同実行委員長兼大会長

芳川 玲子

日本学校心理士会第 20 回大会

実行委員長 田村 順一

実行副委員長 泉原 恭子

日本学校心理学会第 28 回大会

実行委員長 名古屋 学

実行副委員長 持田 訓子

事務局長

齋藤 一政

実行委員(日本学校心理士会神奈川支部役員)

伊藤 琢也	岩澤 一美	尾崎 ゆみ子
蒲地 啓子	川村 智子	北村 耕一
小久保 裕之	小島 恵美子	佐藤 弘幸
杉崎 雅子	鈴木 正一	末岡 洋一
古屋 茂	古屋 美雪	松本 忠司
三浦 千夏	三藤 敏樹	和田 智司

監査

塩野 優子 渡田 典子

準備委員

(株)国際心理科学研究所 浪田敏子

広告掲載・出展社一覧

株式会社 へるす出版

株式会社 北樹出版

株式会社 日本文化科学社

株式会社 創元社

株式会社 電算

株式会社 遠見書房

一般財団法人 公認心理師試験研修センター

教育支援の実践知

子ども・学校・家庭をつなぐ

監修 岡田 守弘 編集 日本学校心理士会神奈川支部



へるす出版

学校が今抱える課題を教育心理学の視点から 事例を交え紹介、まさに実践知!!

今、学校はさまざまな課題に直面しています。
不登校・いじめ・暴力等や子どもの虐待の対応
ヤングケアラーへの支援、外国につながるのある子ども、
性の多様性をもつ子どもへの教育…
学校教育は、「心」への支援を強めていく時代となっています。

本書は、子ども、学校、家庭を支援へとつながるコンセプトに、
「日本学校心理士会神奈川支部」発足25周年を記念し、発刊されました。
神奈川支部役員が中心になって作られた本書は、学校心理学の視点を交えながら、
実際の支援制度や取り組み、併せて事例を紹介する、まさに「実践知」となる1冊です。



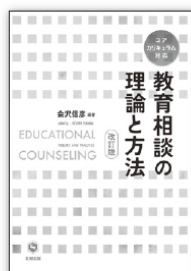
定価3,300円(税込)
B5判/200ページ
ISBN 978-4-86719-118-7

〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3 TEL 03-3384-8035 FAX 03-3380-8645 <https://www.herusu-shuppan.co.jp>

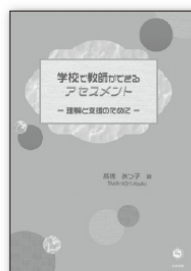
近刊内

自閉症支援ガイド(仮題) 梅永雄二・縄岡好晴編著 2026年10月予定

教育相談の理論と方法 [改訂版]
(コアカリキュラム対応) 会沢信彦編著
生徒指導提要(改訂版)を踏まえた、「チーム学校」を機能させることを目指したテキスト。基礎的な知識を実践現場で活用しやすいよう、事例を交えつつ丁寧に解説した学びやすい入門書。
A5並/168頁 2090円

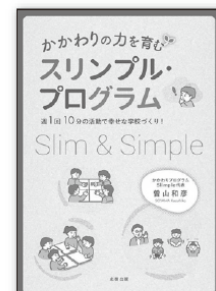


学校で教師ができるアセスメント
理解と支援のために 高橋あつ子著
個々の子どもの特性に目を向け、環境と関わりを変えることで、より良い成長へと繋げる、学校でできるアセスメント入門書。図解も多く、すぐに使える便利なチェックリスト等も収録。
【書評多数!】
A5並/160頁 2420円



好評既刊
実践につながる教育相談 [改訂版] 黒田祐二・清水貴裕・飯田順子編著 2640円
新時代の教育相談 [日本教育新聞書評掲載] 高岸幸弘・黒山竜太編著 2530円
必携…生徒指導と教育相談 渡辺弥生・西山久子編著 2310円
エピソードでわかる子ども・子育て支援 西村太志・古谷嘉一郎・梅田弘子・山崎茜編著 2530円
子育て支援 [新版] 原信夫・松倉佳子・佐藤ちひろ編著 2530円
子ども家庭支援の心理学 [第3版] 原信夫・井上美鈴編著 2640円
心理教育としての臨床心理学 武田明典編著 1980円

かわりの力を育む
スリンプル・プログラム 新刊
週1回10分の活動で幸せな学校づくり! 曾山和彦著
様々な学校で幸せな学校風土をつくり上げている、スリンプル・プログラムの具体的な実践方法を図解し手順を追って平易に解説。更に実践校での具体的な評価や教員へのインタビューを紹介。
A5並/120頁 2420円



北樹出版

〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-2-6 <https://www.hokuju.jp> (価格税込)
TEL: 03-3715-1525 FAX: 03-5720-1488 E-Mail: eigo1@hokuju.jp



関連指標 が加わり、

FSIQ、主要指標、補助指標とあわせて
4つのレベルで解釈可能になります



日本版

WISC-V 知能検査

Wechsler Intelligence Scale for Children - Fifth Edition

子どもの知能を測定するウェクスラー児童用知能検査WISCの最新日本版です。21の下位検査で構成され、特定の認知領域の知的機能を表す5つの主要指標得点(VCI、VSI、FRI、WMI、PSI)、全般的な知能を表す合成得点(FSIQ)、付加的な情報を提供する5つの補助指標得点(QRI、AWMI、NVI、GAI、CPI)、3つの関連指標得点(NSI、STI、SRI)を算出します。

コンプリートセット

187,000円(税込)

実施・採点マニュアル マニュアルと表裏表の2冊1部

19,800円(税込)

理論・解釈マニュアル

14,300円(税込)

記録用紙/ワークブック 1(各20名分)

16,500円(税込)

ワークブック 2(20名分)

5,500円(税込)

関連指標セット

22,000円(税込)

※2028年3月までの有効期間となります。

・2028年3月まで有効期間。18歳以下検査で構成されるWISC-Vコンプリートセットをお持ちの場合は、
「関連指標セット」を追加でご購入いただくことで、5つの関連下位検査を含む21の下位検査を測定いただく
ことができます。

・購入方法の詳細は小冊子「ホームページをご覧ください」。

原 著 者 David Wechsler 原版出版社 Pearson

日本版作成 日本版WISC-V刊行委員会
上野 一彦、石原 利紀、大六一志
松田 修、名越 茜子、中谷 一郎

適用範囲 5歳0カ月～16歳11カ月

実施時間 45分～

日本文化科学社



日本版WISC-V知能検査は、NCS Pearson, Inc. との契約に基づいて作成されたものです。

スクールカウンセリング のこれから

石隈利紀、家近早苗 著

定価1,760円（税込）

みんなが資源、みんなで支援！

スクールカウンセリングの現在と未来を総合的に展望し、教師が保護者やスクールカウンセラーと連携して「チーム学校」として子どもたちの成長を支える「最新の学校心理学」の視点を提供する。学校の力を再発見するための「心理に強い教師の必読書」。



子どもを育む学校臨床力 改訂版

多様性の時代の生徒指導・教育相談・特別支援

角田豊、阿形恒秀、小松貴弘 編著

定価3,300円（税込）

教師として個々の子どもや問題に丁寧にかかわり合い、対応していく力、「学校臨床力」を磨くための入門テキスト。教育関係の記述を中心にリニューアルした改訂版。



スクールカウンセラーの第一歩 改訂新装版

内田利広、内田純子 著 定価 2,640 円（税込）

初任者やSCを目指す学生向けに、学校現場への入り方や教員・保護者との関係の築き方、面接の方法などを解説したSCのための実用書。最新状況に対応した内容にアップデート。



〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6
Tel.06-6231-9010

創元社
<https://www.sogensha.co.jp/>



ココロのページ \ 随時更新中 /
www.sogenshakokoro.com

加害者の指導と支援でいじめを減らす
いじめを限りなくゼロにする教師のかかわり・学校のかかわり・親のかかわり

（吉備国際大学／元校長）藤井和郎 著
ブックレット：子どもの心と学校臨床（11）「だれもが行きたくなる学校づくり」を推進した著者がまとめたいじめをなくす理念と方法。1,760円、A5並

マンガで学ぶセルフ・カウンセリング
まわせP循環！

東 豊 著、見那ミノル画
思春期女子のたまひちゃんとその家族、そしてスクールカウンセラーのマンガと解説からできた本。悩み多き世代のための、こころの常備薬みたいに使ってください。1,540円、四六並

スクールカウンセラーの業務徹底解説セミナー
着任準備から引き継ぎまで

田多正彦著
初学者だけではなく「こんな時どうすれば？」と迷うことがある方向けの、SC実践マニュアル。現場でしか手に入らないノウハウが詰まった業務の流れを徹底的に解説しました。2,530円、四六並

学校でグループ・アプローチを活用する手引き
スクールカウンセラー・教職員のためのメソッド
相田信男監修／大橋良枝・梶本浩史編

ブックレット：子どもの心と学校臨床（10）グループの力を学校臨床やクラス運営に！ SC・学校教職員にに向けたグループ・アプローチの視点や方法を活用する手引き。2,420円、A5並

チーム学校で子どもとコミュニティを支える
教師とSCのための学校臨床のリアルと対応

（九州大学名誉教授）増田健太郎著
不登校・いじめ・学級崩壊・保護者のクレームなど、学校が抱える問題に教師やSCらがチーム学校で対応するための学校臨床の手引き。援助が楽になる関係者必読の一冊。3,080円、A5並

いま、カウンセラーはゲームに夢中な
子どもとどう向き合えばいいのか？

つながる、わかる、支えるための心理臨床の視点
長行司研太・笹倉尚子・植田峰悠・大島崇徳・高井彩名・徳山朋恵 著
子どものゲーム問題に悩む支援者や大人へ、ゲームと子どもへの向き合い方を解説。2,860円、四六並

学校におけるトラウマ・インフォームド・ケア
SC・教職員のためのTIC導入に向けたガイド

ト部 明 著
ブックレット：子どもの心と学校臨床（9）ベテランSCによる学校のための「トラウマの理解に基づいた支援」導入のための手引。トラウマの理解によって学校臨床が豊かになる。1,870円、A5並

思春期性心とサブカルチャー
現代の臨床現場から見えてくるもの

（島根大学教授）岩宮恵子 著
子どもたちとの心理カウンセリングを重ねる中、話題に出てくる「サブカル」とその背景から見えてきた、いまどきの子どもたちの真の姿を思春期臨床の第一人者が読み解く一冊。1,980円、四六並

思春期のための認知行動療法ワークブック
自分の気持ちと行動のトリセツをつくる

（ストレスケア東京上野駅前クリニック）細川大雅著
「毎日イヤなことばかり」「何をやってもうまくいかない」そんなモヤモヤした気持ちをとりえて、自分のための行動を取れるようになることを目指した思春期向けのワークブック。2,200円、B5並

公認心理師の基礎と実践

全23巻

全巻完結！

改訂版も刊行

監修

九州大学
名誉教授

野島一彦

東京大学
名誉教授

繁樹算男

遠見書房では公認心理師カリキュラムに沿った、全23巻にわたるテキスト・シリーズを刊行しました。編者・執筆者には、各領域の最高の研究者・実践家を集めた最良のシリーズ。各2200円～3080円

臨床心理学中事典

野島一彦監修（九大名誉教授）

編集：森岡正芳・岡村達也・坂井 誠
黒木俊秀・津川律子
遠藤利彦・岩壁茂
7,480円、A5上製



シンリンラボ
Clinical Psychology Laboratory

<https://shinrinlab.com>

心理学・心理療法・心理支援に携わるすべての人のための
オンライン・マガジン（登録なし、無料）
編集委員 岩宮恵子・金子周平・小堀彩子・佐藤宏平・津川律子・森岡正芳

心と社会の
学術出版

tomishobo
遠見書房

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭2-28-16
TEL 0422-26-6711/FAX 050-3488-3894
<https://tomishobo.com> tomishobo.com
遠見書房の書店 <https://tomishobo.stores.jp>

小社メールマガジンの購読をご希望の方は、
mailmagazine@tomishobo.comへ空メールをお送りください
価格は税込です 全国の主要書店で販売しております



一般財団法人

公認心理師試験研修センター

当センターでは、公認心理師資格登録後の皆様の自己研さんをサポートする「実践力向上研修」を用意しています。

学校現場で実務を行う公認心理師に向けた研修には、「学校心理士」「特別支援教育士」の更新ポイントにも対応しています。

学校心理研修

特別支援教育研修

「チーム学校」の
実践を支える
心理職に向けた
研修

更新ポイント 対応資格	学校心理士	特別支援教育士
基本 研修時間	2 時間	3 時間
受講料 (税込)	4,400 円	5,500 円
コース数	27 コース	23 コース

詳細はホームページを
ご覧ください

一般財団法人公認心理師試験研修センター ホームページ
【研修・セミナー】 <https://www.jccpp.or.jp/kensyu/>

>>>





発行日 2026年8月22日

発行者 日本学校心理士会第20回大会・
日本学校心理学会第28回大会 合同実行委員会
合同実行委員長兼大会長 芳川玲子

編集制作 株式会社 国際心理科学研究所